

2017年2月10日(木)～12日(日)開催 タイ「JAPAN EXPO THAILAND 2017」

(1) 開催までの経緯

平成27年度に同じくタイバンコクにおいて一般消費者を対象とした日本の文化全般を取り上げるイベントへブース出展し、ステージイベントとして著作権〇×クイズを実施したところ、タイの国民性なのか、もしくは粗品のmade in Japanが持つ力なのか、アンケートやクイズへの協力や貢献度合いがとても高く、PRの機会としては大変効果があると感じられた。

今年度はどうせやるならということ、タイで開催される最も大きい日本イベントで同内容(コンテンツの利用に関する著作権意識調査、著作権〇×クイズ、ブース出展による著作権保護啓発ポスターの掲示、正規品と模倣品の比較展示、日本コンテンツのモニター上映)の著作権普及啓発活動を行った。

ブースの出展に関しては、タイ知的財産局(DIP)、日本国文化庁、コンテンツ海外流通促進機構(CODA)の合同名で出展することとした。

また著作権〇×クイズに関しては、タイ知的財産局(DIP)の著作権担当職員を解説者として招き、ステージ上に登場していただき、各設問に対して分かりやすく丁寧に解説をしていただくこととした。

(2) 実施概要

開催日：2017年2月10日(木)～12日(日)

開催時間：2月10日12:00～15:00、2月11日・12日11:00～20:00、

開催会場：タイ バンコク セントラルワールドプラザ 屋内・屋外

主催：G-Yu Creative (ジーユークリエイティブ)

後援：在タイ日本国大使館、独立行政法人国際交流基金、日本政府観光局、ジェトロ・バンコク事務所

【実施内容】

1. コンテンツの利用と著作権に係るアンケート調査と著作権普及啓発グッズの配布

開催期間中、11日、12日の11:00～20:00の間で、イベント来場者を対象にコンテンツの利用と著作権に係るアンケート調査を実施した。目標数は2日間合計で1,000名。

回答者数は2日間合計1,108名。

回答者に対しては、片面に“SAVE COPYRIGHT”のプラカードを持った女の子の描き下ろしイラストが描かれ、片面に今年度作成した“著作権保護啓発ポスター”の半面を印刷したDIP、文化庁、CODAロゴ入りクリアファイルを贈呈した。

【調査時間】

2月11日（土）・12日（日） 11:00～20:00 （※途中休憩等数回あり）

【調査目標数】

11日 600名、12日 400名 2日間合計目標 1,000名

【回答者数】

11日・12日合計 1,108名

【調査人員】

タイ現地女性スタッフ5名

2. 展示ブースの出展

イベント期間中、タイ著作権局（DIP）、文化庁、CODA名で展示ブースを出展し、著作権啓発ポスターの掲示、正規版と海賊版の比較展示、日本コンテンツの上映などを行い、現地での著作権の普及啓発に努めた。

3. 著作権〇×クイズの実施

2月10日～12日の3日間に渡り、屋内ステージにおいて、タイ知的財産局（DIP）の著作権担当職員、イベント出演アーティストを招いて、来場者を回答者として著作権に関する〇×クイズを実施した。

クイズ参加者には、〇×の紙と引き換えにアニメイトバンコク店より提供いただいたアニメキャラクターグッズを贈呈した。

【実施時間】

2月10日（金）15:00～15:30、2月11日（土）18:30～19:00、
2月12日（日）15:00～15:30 1日1回全3回実施

【クイズ解説者】

2月10日（金）コンテンツ海外流通促進機構 事務局担当部長 渡部清隆

2月11日（土）、12日（日）タイ知的財産局 著作権局上席法務局員

Vipatboon Klaosontorn 氏

コンテンツ海外流通促進機構 渡部清隆

【ゲスト解答者】

2月10日（金）YANAKIKU <https://yanakiku.jp/>

【クイズ参加者】

3日間合計：442名

2月10日（金）94名、11日（土）114名、12日（日）234名

（※いずれも〇×用紙回収数）

年齢層は幅広く10代から上は60代くらいの人も見受けられた。

男女比は男性5：5女性、ほぼ同数。

週末ということもあり、かなり幅広い年齢層の方に参加してもらうことができた。

【出題クイズ】

3日間とも各10問を出題。ほぼ正解率は90%程度であったが、2、3問程度60%程度の正解率の問題があった。

《正解率の低かった問題》：

- ・「兄は絵が上手で私の自転車にキティちゃんの絵をかいてくれた。兄が妹のためにかいたものなので問題はない。」：正解〇
- ・「ハローキティの絵を印刷した“横断中”のハタを作り、交差点においた。交通安全のためだから自由に絵を使ってよい。」：正解×

クイズ終了後に、ステージ下へ来てDIPのVipatboon氏に直接質問をする若い男性がいたり、クイズの合間に客席から手を上げて質問をする女性がいたり、クイズ参加者の中にも、著作権に対して大変熱心で興味を持っている現地の人たちの姿が見受けられた。

（3）イベント実施総括

日本の文化全般を対象としたエンタテインメント性の強い、タイ最大級のイベントということで、ピコ太郎やAKB48、ハロプロメンバーの出演等もあり、お天気にも恵まれ3日間の期間中、来場者数はのべ人数で主催者発表500,000人、イベント自体も大変な盛り上がりを見せた。

コンテンツの利用と著作権に係るアンケート調査については当初の目標数を上回る回答を得ることができ、もっと用意があればさらに数字は増やすことが可能であった。それほど人出の多いイベントであったので、我々としても大変有用な調査をおこなうことができた。

著作権〇×クイズに関しても、前述のようにクイズ終了後も熱心に質問をしてくる人が数名見受けられ、著作権の保護に向かっている、大きい波のような勢いを感じることもできた。DIPの担当者にも大変協力的に真摯に解説をしていただき、ステージ終了後も一般の方

からの質問や意見に対し、引き続き丁寧に対応していた。

イベント全体で 151 ものブースが出展したが、残念ながらその中で、日本の人気アニメのキャラクターを 2 頭身にデフォルメしたものの掲示と、そこからイメージした商品を全面に推したカフェの出店があった。一看すると許諾を受けた正規のもののように見えたが、イラスト等の使用については無許諾らしいとの情報が入り、こちらから主催者へ厳重なる注意を告げるということがあった。イベント終了後、そのカフェの出店者からの始末書と併せて主催者からも「許諾のない商品が販売されたり、知的財産権を侵害するものが出回ることはあってはならないことと重く捉えており、今回確認・追及が甘かったことでそのような出展者がイベントに入ってしまったことを深く反省している。今後は、もっと慎重に、出展内容についての事前確認、および知的財産権侵害についての注意喚起を厳しくしていく所存である。」との連絡をいただいた。

このような注意喚起を形として残すことができたのも、微力ながら著作権普及啓発の一端となったのではないと思われる。可能であれば、定点観測のように来年度以降もこのイベントに出展し、イベント全体の出展内容にどのような改善がみられているかのチェックができればと思う。

一般消費者への直接的な働きかけという点では、本事業の対象国となっている ASEAN4 ヶ国の中では、イベントの規模はタイ、インドネシアの 2 か国が圧倒的に集客力、動員力があると感じた。しかもタイにおけるこのような消費者対象イベントは、来場者のリアクションがどのイベントにおいても非常に良く、今後も可能であれば定期的を開催することを提案していきたい。



アンケート調査の様子



○×クイズ 解答の様子



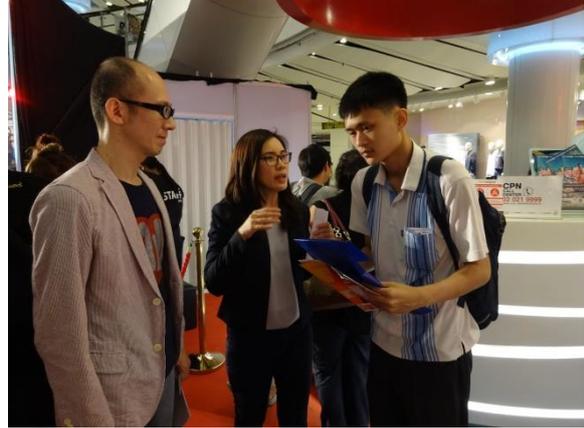
○×クイズ 出題の様子



○×クイズ 解説の様子



○×クイズ 会場からの質問



○×クイズ終了後の質問